小畠病院 広報誌　vol.166
平成31年1月31日発行

日本医療機能評価機構
認定第 JC637 号

葦あ

冬号

2019 WINTER

職員旅行に行ってきました（5ページ目に関連記事）

病院理念

地域に望まれる理想の医療を目指して

基本方針

1.私たちは患者さんの立場に立ち、安心で満足できる医療を提供します。
1.私たちは患者さんに心から信頼される医療人を育成します。
1.私たちは地域に密着した病院としての機能向上を図ります。

医療法人 ㈳玄同会 小畠病院（こばたけ）

外科・総合診療科のご紹介

外科部長
中井（なかい）　肇（はじめ）医師

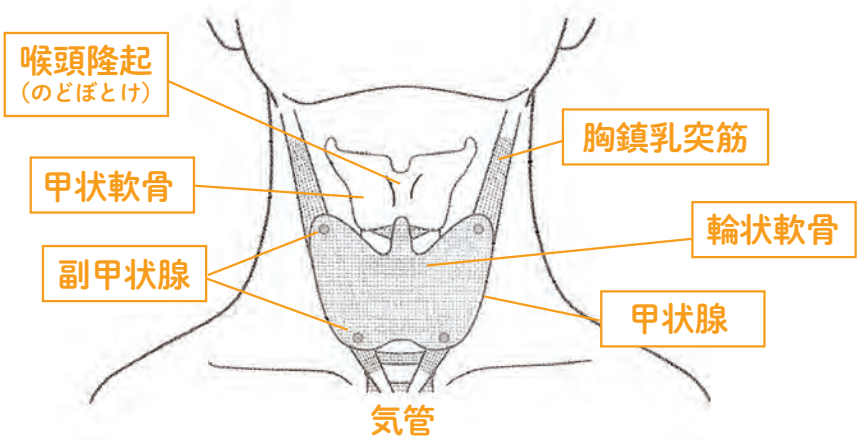
第2外科部長
和久（わく）　利彦（としひこ）医師

外科・総合診療科は常勤外科医2名で診療を行っています。
一般的な外科の初期治療、腹部疾患の総合的な診療、総合診療として、内科や泌尿器科、眼科、リハビリテーション科と連携しながら外来・入院診療にあたっています。
平成30年8月からは、甲状腺・副甲状腺疾患を中心とした内分泌外科専門医の和久医師も加わり、専門的な診療も行っております。
今回は、甲状腺・副甲状腺疾患についての特集を紹介します。

特集　甲状腺・副甲状腺疾患について

甲状腺は首の前方、のどぼとけの下にあり、気管を前方から側方へかけて取り囲むように張り付いています。
甲状腺ホルモンの主な働きとしては、新陳代謝の維持・調節を行って生命維持に必要なエネルギーをつくり、あらゆる臓器が正しく機能するように働きかけます。

当院ホームページにて「甲状腺について」より詳しい説明を掲載していますのでご覧ください。
https://kobatake.or.jp/outpatient/surgery/thyroid_gland/



甲状腺の内科的な病気であれば甲状腺ホルモンが過剰か不足かといった機能的な異常が問題となりますし、外科的な病気であれば切除が必要か否かの問題となります。

甲状腺ホルモン過剰の代表格の**バセドウ病**は、過剰分泌により動悸、頻脈、体重減少、多汗、手指の震え、甲状腺の腫れ、イライラ、下痢、倦怠感などの全身状態が現れます。治療には、抗甲状腺薬、放射線治療、外科療法があります。他に、**慢性甲状腺炎（橋本病）**を基礎として慢性甲状腺炎の成因機序が増悪するかまたは新たな機序が加わるために生じる**無痛性甲状腺炎**と、頸部の痛みや発熱が甲状腺ホルモン過剰による症状よりも強く出ることが特徴の**亜急性甲状腺炎**があります。

慢性甲状腺炎（橋本病）は甲状腺分泌不足の代表でもありますが、症状としては、徐脈、体重増加、発汗減少、脱毛、息切れ、寒がり、甲状腺の腫れ、倦怠感、便秘、動作緩慢、易疲労性などがあります。治療は甲状腺ホルモン剤の補充療法を行います。

外科的な病気としてはがんである場合が大半を占め、乳頭がん、濾胞がん、低分化がん、髄様がん、未分化がんがあります。乳頭がん、濾胞がん、低分化がんに対する治療としては、外科的切除を行い、遠隔転移や根治切除不能局所再発巣に対しては放射性ヨウ素内用療法、さらに放射性ヨード内用療法抵抗性を示す場合は分子標的薬が使用されます。髄様がん・未分化がんに対しては、外科的切除に加え、外科的根治切除不能で進行性であれば分子標的薬が使用されます。

甲状腺の背側にある副甲状腺から分泌される副甲状腺ホルモンは、血中カルシウム濃度を正常範囲内に調節する作用をします。副甲状腺自体の病気で副甲状腺ホルモンが過剰分泌される**原発性副甲状腺機能亢進症**では、副甲状腺腺腫、過形成、あるいは副甲状腺がんによる副甲状腺ホルモン分泌過剰により、腎・尿管結石、骨粗鬆症、消化性潰瘍、膵炎、高血圧、筋力低下、感覚障害、うつ状態、不眠、集中力低下、記憶障害などが出現します。根本的な治療は、手術による病的副甲状腺の摘出です。**慢性腎臓病**などの副甲状腺以外の原因で副甲状腺ホルモンが過剰分泌される病気は**続発性副甲状腺機能亢進症**と呼ばれますが、骨・関節痛、骨塩量の減少や骨格の変形、血管・心臓・副甲状腺・肺・消化管などの石灰化、筋力低下、うつ状態、不眠、集中力低下が特徴的であり、治療として副甲状腺ホルモンの分泌を抑制するシナカルセトの投与が行われています。

特に当院泌尿器科では、福山市と福山市周辺の医療圏から年間1,100人程度の尿路結石症患者さんが受診されています。**原発性副甲状腺機能亢進症**に伴う**尿路結石症**の患者さんも多数認められており、泌尿器科と内分泌外科の連携で治療しております。

文責：和久 利彦医師

当院内分泌外科業績

（論文）
甲状腺濾胞癌の術後多臓器転移に対してソラフェニブ、
レンバチニブ順次投与を行った1例.
広島医学71(7):536～542,2018
抗甲状腺薬投与によりANCA関連血管炎発症したBasedow病の2例
日本臨床外科学会雑誌80(3),2019 in press

（学会発表）
Thiamazole(MMI)短期服用でANCA関連血管炎をきたした
バセドウ病の1手術例.
第51回日本甲状腺外科学会学術集会2018年10月25日横浜脾摘により
バセドウ病・シェーグレン症候群が改善した
特発性血小板減少性紫斑病の1例.
第80回日本臨床外科学会総会2018年11月22日東京

1

第8回 小畠病院オープンカンファレンスを開催しました

日時：平成30年12月7日（金）　場所：小畠病院 北館講堂

講演　小畠病院 内科・循環器内科 副院長　小畠廉平 医師　演題『心不全と地域連携』

特別講演

福山市民病院 循環器内科」 統括科長　吉川昌樹先生

演題『福山市民病院における心不全の治療方針と心不全クリニカルパス』

地域の先生方や院内スタッフなど100名近い人数の方に聴講いただきました。吉川昌樹先生からは診断における過程や急性期治療、また心不全パスをもちいた治療、これからの心不全患者の動向など詳しくお話していただき、とても勉強になりました。

2

第6回 日本難病医療ネットワーク学会学術集会で発表しました

日時：平成30年11月16日（金）～17（土）
場所：岡山コンベンションセンター

当院から3題発表しました

演題『神経難病患者に対する退院後訪問指導の意義について』

これまでの退院後訪問指導を振り返り、神経難病患者さんの在宅での日常生活には疾患特有の困りごとがあることが分かり、発表しました。今後も地域の病院として患者さんの生活を支えられるよう、チーム一丸で支援していけたらと思います。

地域連携室 社会福祉士　小川育恵

演題『Hoehn-Yahr重症度分類Ⅲ度以上の通院パーキンソン病患者に対する集団活動の現状報告～当院での取り組みを通じて～』

2014年より在宅パーキンソン病患者さんを対象に行っているパーキンソン病体操クラブの活動について発表しました。これからも学会で学んだことを活かして、生活の質の維持を目標に継続していきたいと思います。

リハビリテーション科 作業療法士　吉岡加代

演題『パーキンソン病患者がレスパイト入院を繰り返す中での多職種の役割について～安心して継続した在宅生活を続けられるために～』

パーキンソン病患者さんが定期的にレスパイト入院を利用することで、患者さんの日常生活動作や生活の質が向上し、介護者の介護負担の軽減が図れた症例を発表しました。

地域連携室 社会福祉士　中本有美

3

第42回 福山医学会、第55回 福山医学集会合同会 第25回 福山医学祭で発表しました

日時：平成30年11月18日（日）
場所：福山すこやかセンター

当院から2題発表しました

『ESWL（体外衝撃波結石破砕術）治療時の苦痛について～看護師に出来ることはなにか～』

泌尿器科外来では、年間約200名の方がESWLを行っています。しかし、ESWLを受けた方からは、治療の痛みと同一体位の苦痛があるという声を多く聞き、少しでも安楽に治療が受けられるよう看護師に何かできることはないかと思い、クッション材を見直し除圧方法を変更しました。結果、苦痛の軽減につなげることができました。

外来看護師　守安裕子

『ALS患者への視線入力が可能な意思伝達装置の導入について～新人療法士が感じたこと～』

入院中のALS患者さんに対し代替コミュニケーション機器を導入しています。この度その取り組みについて口述発表し、福山医学祭優秀発表賞を受賞致しました。コミュニケーション機器の導入においては様々な課題がありますが、この賞を励みに今後も適切な時期にコミュニケーション機器が導入できるように精進していきたいと思っております。

リハビリテーション科 理学療法士　黒田知之

泌尿器科非常勤医師の紹介

泌尿器科

後藤景介（ごとう けいすけ） 医師

趣味：料理
好きな食物：カレーライス
苦手なもの：酸っぱいもの
好きな言葉：一意専心

ひと言：

１月から月曜日の泌尿器科外来を担当させていただくことになりました後藤と申します。福山での診療は初めてですが、地域の皆さまに少しでも貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

職員旅行に行ってきました

当院では隔年で職員旅行を企画・催行しています。今年度は職員アンケートで最も希望の多かったＵＳＪに、5班に分かれて行ってきました。職員・家族と共に楽しいひと時を過ごすことができました。

2018
11/11.12

1泊2日で、USJ、よしもと新喜劇、あべのハルカスなどを満喫させて頂きました。

両日とも最高の天気に恵まれ、一日目のUSJでは閉園まで楽しめる時間の余裕があり、ユニバーサル・ワンダー・クリスマスショーも見ることが出来ました。2日目はよしもと新喜劇で朝から大笑い！私がこの旅行で楽しみにしていたのはUSJとよしもと新喜劇でしたが、あべのハルカスでまさかのエッジ・ザ・ハルカス（地上300ｍの断崖絶壁スリル体験）をすることになり、何ともそれが一番印象深い思い出となりました。少し足が竦む中、幅約60cm、長さ20ｍのデッキの上を命綱を装着して歩き、さえぎるものがなにもない状態で360度の絶景と遥か眼下に広がる街並みを全身で体験してきました。こういう機会だからと、チャレンジしようという仲間がいたから挑戦できたのだと思います。これも旅行ならではですよね。笑みが絶えない楽しい2日間で、とても満足した旅行となりました。

（第二病棟）

子供を連れて職員日帰り旅行へ参加させて頂きました。子供同伴での職員旅行が企画されるようになって2度目の参加です。当日は生憎の天気でしたが子供たちは託児所時代の同級生と久しぶりに顔を合わせ、それだけでも楽しい道中でした。幸いアトラクションの待ち時間が大幅に少なく、数多く乗ることができましたし、大好きなミニオンとも会うことができて、大満足でした。帰り道では皆が数多くのおみやげを引き下げ、最高の思い出とともに貴重な時間となりました。

（リハビリテーション科）